

Funehiki High School News vol.148

～がんばる船高生～ **ATTENTION!** 第28回 山形大学に合格 進学コース 渡邊 燎太さん

進学・就職の両方に力を入れている船引高校。今年度も順調に3年生が進路を決定しています。今回は、「山形大学工学部機械システム工学科」にアドミッション・オフィス入試（AO入試[※]）で合格を決めた渡邊燎太さん（船引中出身）に話を聞きました。

※AO入試…大学の入試方法の一つ。高校での成績や小論文、面接などで入学の可否を判断する制度。渡邊さんが受けたAO入試は、AI（人工知能）についてレポートを書き、それについての面接や口頭試問などでした。

—合格するために努力したことはなんですか？

渡邊さん 口頭試問対策では、理系科目の学力アップに力をいれました。大学に入ってから授業についていけるように、夏休み前から先生方に個別に授業をしていただきました。工学部を目指していたため、物理や数学を中心に勉強しました。物理では問題が解けなくて悔しい思いをしました。しかし、解けない問題に対して、まずは自分で調べるということを大切に、必死に頑張りました。面接対策では、集団討論を数多く行いました。私は、自分の考えを相手に伝えることが苦手でした。しかし、自分の意見を理論立てて相手に伝える練習をすることで、自分の考えを表現する力がついたと思います。

—野球部に所属して、勉強ができましたか？



渡邊さん 放課後はほぼ毎日部活があり、家に帰ると疲れてあまり勉強ができませんでした。だから、



▲ドローンを操縦する渡邊さん

毎日の授業に集中していました。また、1年生の頃から、部活が終わり帰宅後に必ず1問でも問題を解くことで、勉強することが少しずつ習慣化していきました。

—大学ではどのような研究をしたいですか？

渡邊さん 私は、野球部の他にドローン部にも所属していました。ドローンの操作や、プログラムを組んで、自動操縦などを学びました。その経験を活かし、将来ロボットを用いて、福島県の復興に携わりたいと考えています。現在、福島県は原子力発電所の廃炉作業を進めています。人間は原子力発電所内部に近づくことが出来ないため、ロボットを用いた作業が続いています。しかし、放射線など何かしらの影響で、ロボットに不具合が出てしまい、廃炉作業が少しずつしか進んでいません。そこで、私は大学でロボットに対し何が影響を与えているのか？作業環境に左右されないロボットはできるのか？について研究したいと考えています。そして、一日でも早く復興作業が終わり、福島県の人たちが安全・安心に暮らすことができる地域にしたいです。

◆令和元年度 鵬翼祭が開催されました

11月3日、本校で三年に一度の公開文化祭「鵬翼祭」が開催されました。「It's 笑 time～令和だヨ！ 笑ったもん勝ち～」をテーマに、クラスごとの企画や学習成果展示発表、ドローン体験会、生徒のダンスなどのステージ発表などイベント盛りだくさんでした。校門には「お人形様」の歓迎門、昇降口には全生徒によるちぎり絵ビッグアートの展示が行われました。テーマのとおり、笑顔あふれる文化祭になりました。



▲ドローンで撮影したビッグアート



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp

冬の楽しみ



Abigail Swartzbaugh
アビー・スウォーツバウさん
(アメリカ合衆国ペンシルベニア州出身)
田村市に来て2年目



ペンシルベニア州の冬はとても楽しい季節です。私の家は大きな湖の近くにあり、冬はたくさん雪が積もります。10月に雪が降ることありますが、たいてい11月まで雪は降りません。雪が降り始めると、60センチかそれ以上に積もります。人々は雪で遊ぶのが好きで、雪だるまを作ったり、雪合戦をしたり、snow angel（新雪の上に寝転んで人型を作り、腕

を上下させて天使の羽にする）を作ったり、積みあがった雪山にトンネルを掘ったりします。冬にできる私の好きなことの一つは、そり滑りです。私の家族は、車での何回もそり滑りをします。時には、雪で小さなジャンプ台を作ったり、そりでジャンプをしたりもしますが、繰り返し丘の上まで歩いて登らなければならないので、そり滑りはとても疲れます。疲れた時は休憩して雪を食べます。そり滑りには、飼犬のアイザックも連れて行きます。アイザックは雪の中を走り回るのが好きで、雪の中に自分の顔を埋めるのがお気に入りの一つです。

そり滑りを終えて帰宅するとココアを作り、体を温めようと毛布にくるまってココアを飲みながら映画を見ます。夜に降ってくる雪は魔法のように見えて、また静寂に包まれている中、それを眺めるのが大好きです。外に行つて雪で遊ぶのはとても楽しいですが、私が冬で一番良いと思うことは、家の中で家族と一緒に話したり、笑ったりして同じ時間を過ごすことです。

海を越えて 英語指導助手 ペンリレ No. 77



アイススケート

Mekayla Morrison
マケラ・モリスンさん
(アメリカ合衆国ペンシルベニア州出身)
田村市に来て2年目

私の一番好きな季節は、季節をとても楽しむことができる夏です。夏以外はあまり好きではありませんが、冬は少し楽しめます。アメリカの冬には、雪の中でいろいろな楽しい活動があり、私は雪だるまを作ったり、そり滑りをしたり、アイススケートをするのが好きです。アメリカでは冬の間ずっとスケートリンクが凍ったままのような寒い地域でなければ、たいていスケートリンクは屋内にあります。私が住んでいるペンシルベニア州のスケートリンクはすべて屋内にあります。屋内のスケートリンクではいつも音楽が流れていて、カラオケのように歌いながらスケートをするのができ、友だちとスケートをするのがとても楽しく大好きな場所でした。日本ではスケートをする機会はないのかなと思っただけが悲しかったの



ですが、日本人の友だちがスケートに誘ってくれた時はとてもうれしかったです。そのスケートリンクは屋外にあって、私は初めて屋外でスケートをしました。一年で最も気温が低くなる一月に行ったので、屋外のスケートリンクはとても寒かったのですが、とても日差しが美しい日でした。山々は雪で覆われ、仰げば青空が広がっていて、屋外でスケートをするのにぴったりの日でした。スケートをしながらかわいい山々を見るのが好きで、屋外でのスケートは日本でも冬にできる私のお気に入りの活動になりました。自然の中にあるのが大好きな私ですが、真冬の自然をいつも楽しむのは難しいことです。だから、日本でスケートをする時は自然も楽しめるのが分かっています。